gusta 3 mm. longo, parte amplificata 7 mm. longo apice 5-dentato; lobis ovato-deltoideis 2 mm. longis. acutis. Pappi perfecte nulli (!). Ovarium oblongo-cylindricum 5 mm. longum glabrum.

Hab. Manshuria: Prov. Liao-ning〔遼寧省〕: in monte Ma-t'ienling〔摩天嶺〕(S. Itô Jul. 24 1940); ibidem (D. Simizu Mai. 14, 1943; Jun. 16, 1944; Jun. 18, 1944).

Area Geogr. Manshuria austr.-orient.

○セイバンモロコシの歸化　（久内清孝）

セイバンモロコシ *Holcus halepensis* (L.) Pers. は今秋伊達健夫氏により横濱市北方諏訪町で採集された，現地を臨檢せしに歸化狀態である。現場は占領軍宿舍に隣接して居るから同軍の軍需品に附著して來たものであると思はれる。東大標本中によれば前川文夫氏が千葉縣三里塚で採つて居るし (I, IX, 1944)，科學博物館には淺野貞夫氏採集にかゝる千葉縣東條村で栽培して居たものゝ標本 (17, VIII, 1943) がある。內地の採品はこれ丈しか見ることが出來ないが，恐らく横濱のものとは渡來經路を異にするものと考へられ，千葉縣のものは牧草用として，又はそれに混じて來たのであろう。本品は氣候の關係で結實するに至らなかつたが地下莖が發達して居るから，內地の樣な氣候でも確實に越冬し得られるので，歸化植物として生存するであろう。

○ハウチハタヌキマメ（新稱）　（久內清孝）

余は雜誌自然研究第4號 (25VI, 1947) に「東京の燒失區域に現れた若干の植物なる小文をかゝげ，其中に種名不明のハウチハマメを得たことを記して置き，東京科學博物館の陳列中に，其腊葉を出品し今日に及んだのであるが，最近或必要から Blanco: Flora de Philipinas を見て行く中にこの植物は *Crotaralia quinquefolia*, Linn. であることが判り，とんだ失敗をしたことを知つた。採集當時 (13, XI. 1945) 數本叢生して居たので，其葉の形から判斷して，多年生のハウチハマメの一品と早合點したのである。しかしかりに判つて見ると，叢生して居たのは，一つの莢果が地に落ち其中の種子の數個が同時に發育した爲めであろうと思はる。一年生で，しかも熱い處のもので，おそく發芽した結果やつと穗が出かけたところで霜により，そのまま絕滅してしまつたものゝ，一夏丈我が土に生えたものではあるが我國で採集したものであるから餘計なことながら**ハウチハタヌキマメ**なる新和名を與えておくことゝし，前の誤りを訂正かたがた記しおく。尙本品をとつた地點は，蒲田驛表口から數米突東京寄りの燒跡であつた。標本は東大と科學博物館と資源科學研究所に各一個づゝをく。花は褐黃色で，葉は5數性掌狀複葉で中央片が他のものより少しく長い。原記載によれば印度となつて居るが現在では汎く熱帶に產する。金平博士の An enumeration of Micronesian Flowering Plants にはこの草にキバナハギの和名があるがそれが誤植であることは同氏の南洋群島植物ではそれが別のものに用ひてあるし，またキバナハギの名は正宗氏が臺灣博物學會々報で他のものに與えた名だから，現在 *C. qninquefolia* には和名が無い故新稱を與へることにしたのである。